

在外邦人受入れのためのニーズ調査・最終結果報告

このたびは、お忙しいところ、本ニーズ調査へのご協力を賜り、誠にありがとうございました。海外在住の日本人の皆様から貴重なご意見や励ましのお言葉をいただき、深く感謝しております。在外邦人の方々への教育サービス提供について、実現には、まだ多くの障壁がありますが、より良いものを提供できるよう検討を進めてまいります。今後ともご協力を賜れば幸いです。調査結果をまとめましたので、その概要を報告させていただきます。

1. 調査の目的

本学の海外展開を検討するにあたって、在外邦人の皆様がどのような学びに関心をお持ちで、授業がどのような形式であれば受講したいと考えているのか等、放送大学を通じた学びへのニーズについて調査し、今後の制度設計に役立てるものです。

2. 調査方法

調査期間：2022（令和4）年2月8日～5月8日

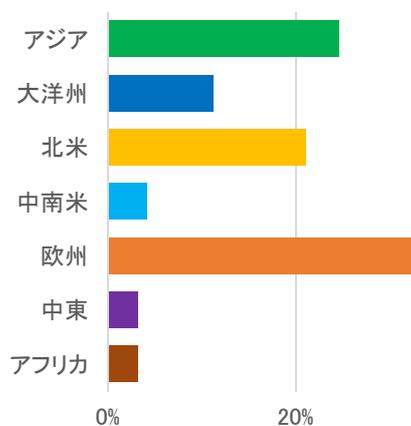
対象者：2022（令和4）年4月1日時点で、日本国外に在住予定の方

調査方法：Web アンケート調査

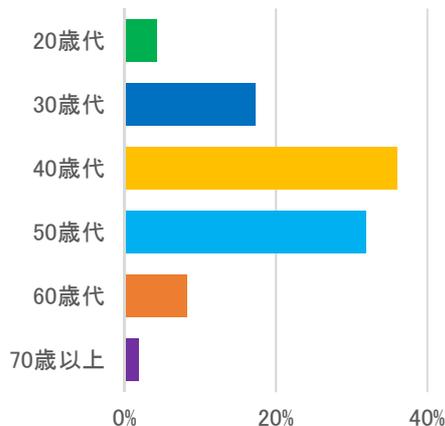
3. 回答者数と、その属性

- ・511人（男性106人、女性388人、その他2人、回答しない15人）から回答がありました。
- ・回答者の在住地域と年齢の分布については、以下のとおりです。

<在住地域>



<年齢>



※回答を得られた者に対する割合
(次ページへ続く)

4. 調査結果の概要と考察

・学習目的について「仕事に生かせる知識やスキルを習得したい。」という回答が多かった一方で、「語学や歴史、芸術など、教養を身につけたい。」という回答も多数あり、目的はさまざまでした。

・放送大学には、外国語をはじめとした基盤科目の他、専門的な学習を深める「生活と福祉」「心理と教育」「社会と産業」「人間と文化」「情報」「自然と環境」の6コースで科目を開講しています。専門分野に関する調査結果から、外国語や各コースの分野にわたり学習ニーズがあることがわかりました。

・放送大学には、テレビ・ラジオ等による放送授業やオンライン授業、面接授業の代替としてのオンライン上でリアルタイムの受講ができるライブ web 授業等があります。調査の回答を見ると「自分のペースで学べる学習管理システム(LMS)を利用した非同期型オンライン学習」「テレビ番組授業をインターネットでオンデマンド受講」の希望が多く、次いで「ウェブ会議形式での同時双方向型授業や演習」で学習したい、という結果になりました。

5. 今後の展望

今回の調査結果は、在外邦人向け教育サービスを開始するための検討に活用させていただきます。今後、提供科目の内容や実施方法など、さらなる具体化に向け、実際に授業を受講していただくモニター調査等もお願いする予定です。

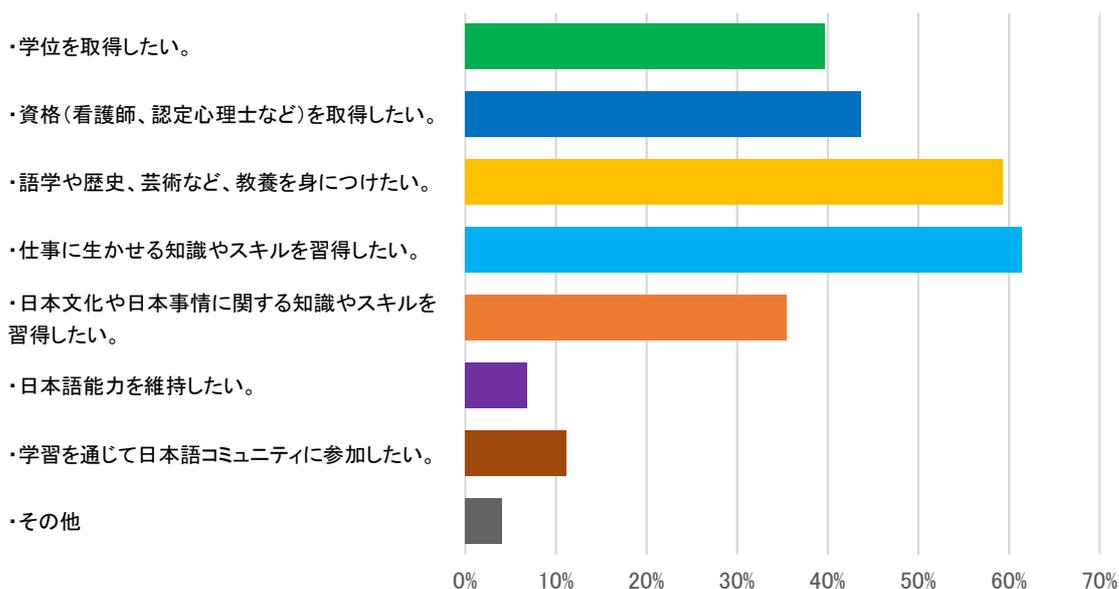
<本件連絡先>

放送大学在外邦人受け入れ調査グループ
zaigai-info@ouj.ac.jp

(アンケート結果の抜粋は、次ページへ続く)

アンケート結果（抜粋）

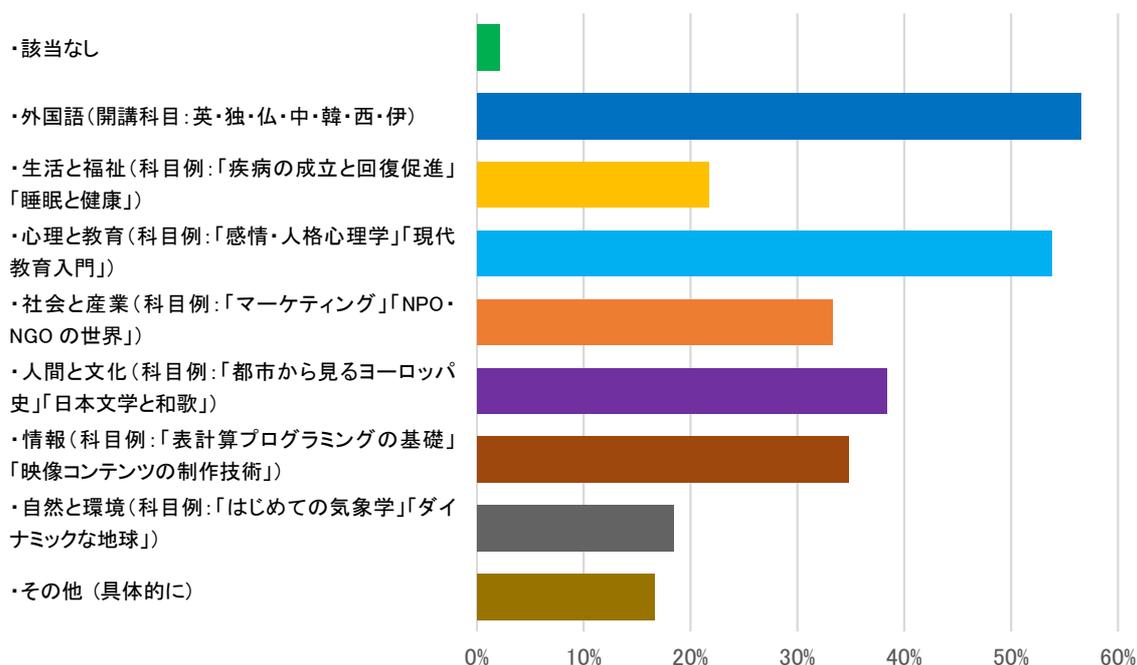
Q2 放送大学は、日本国内では、「だれでも学べる大学」として知られています。もしあなたが放送大学で学ぶとしたら、その目的を教えてください。現時点で放送大学で学ぶ予定がない場合は、どのような目的なら放送大学での学びを検討するか教えてください。（複数回答可）。



回答の選択肢	回答数	回答割合
学位を取得したい。	203	39.7%
資格(看護師、認定心理士など)を取得したい。	223	43.6%
語学や歴史、芸術など、教養を身につけたい。	303	59.3%
仕事に生かせる知識やスキルを習得したい。	314	61.4%
日本文化や日本事情に関する知識やスキルを習得したい。	181	35.4%
日本語能力を維持したい。	35	6.8%
学習を通じて日本語コミュニティに参加したい。	57	11.2%
その他	21	4.1%

(次ページへ続く)

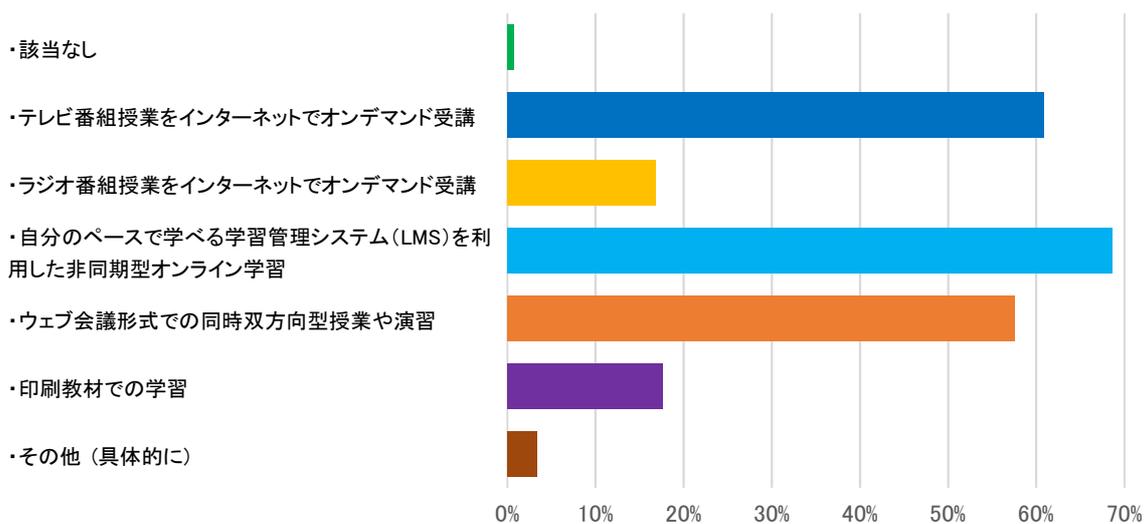
Q3 あなたが放送大学で受講してみたい専門分野があれば教えてください（複数回答可）。



回答の選択肢	回答数	回答割合
該当なし	11	2.2%
外国語(開講科目: 英・独・仏・中・韓・西・伊)	289	56.6%
生活と福祉(科目例: 「疾病の成立と回復促進」「睡眠と健康」)	111	21.7%
心理と教育(科目例: 「感情・人格心理学」「現代教育入門」)	275	53.8%
社会と産業(科目例: 「マーケティング」「NPO・NGOの世界」)	170	33.3%
人間と文化(科目例: 「都市から見るヨーロッパ史」「日本文学と和歌」)	196	38.4%
情報(科目例: 「表計算プログラミングの基礎」「映像コンテンツの制作技術」)	178	34.8%
自然と環境(科目例: 「はじめての気象学」「ダイナミックな地球」)	94	18.4%
その他(具体的に)	85	16.6%

(次ページへ続く)

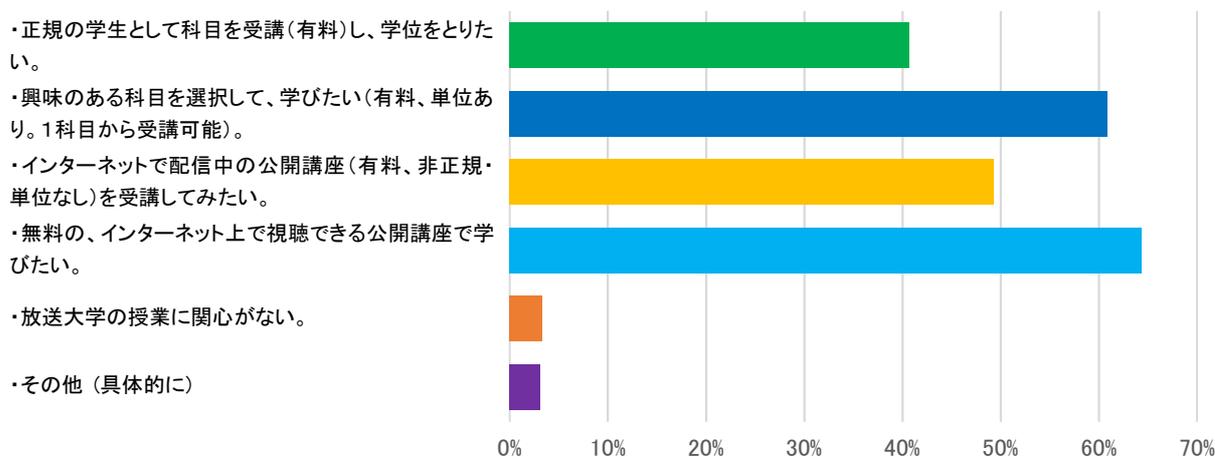
Q7 もしあなたが放送大学で学ぶ場合、どのような方式で学習したいですか（複数回答可）。



回答の選択肢	回答数	回答割合
該当なし	4	0.8%
テレビ番組授業をインターネットでオンデマンド受講	311	60.9%
ラジオ番組授業をインターネットでオンデマンド受講	86	16.8%
自分のペースで学べる学習管理システム(LMS)を利用した非同期型オンライン学習	351	68.7%
ウェブ会議形式での同時双方向型授業や演習	294	57.5%
印刷教材での学習	90	17.6%
その他(具体的に)	17	3.3%

(次ページへ続く)

Q14 あなたは、どのように放送大学の授業を受講してみたいと思いますか。(複数回答可)



回答の選択肢	回答数	回答割合
正規の学生として科目を受講(有料)し、学位をとりたい。	208	40.7%
興味のある科目を選択して、学びたい(有料、単位あり。1科目から受講可能)。	311	60.9%
インターネットで配信中の公開講座(有料、非正規・単位なし)を受講してみたい。	252	49.3%
無料の、インターネット上で視聴できる公開講座で学びたい。	329	64.4%
放送大学の授業に関心がない。	17	3.3%
その他(具体的に)	16	3.1%

Q18. その他、ご意見がございましたらお書きください。

(まとめ、抜粋。記述は原文のまま記載しています)

➤ 海外に住んでいても、日本語で学びたい。

「海外で日本語で専門的なことを学ぶチャンスがないので、もし在外邦人が放送大学で学べたら非常に素晴らしいと思います。」(40歳代・女性)

「海外にいと日本語で学びたい意欲が増えますが難しいのが現状です。海外受講が可能になればとても嬉しいです。」(50歳代・女性)

「海外在住27年目になります。日本語を保持のため、そして新しい知識を得るためにオンラインで学びたいと思っていました。放送大学が海外からでも受講可能になれば、とても嬉しいです。」(50歳代・女性)

➤ 海外から放送大学で学ぶことを、希望していた。

「海外から放送大学をなんとか受講できないかと、定期的に模索していました。社会学、文化人類学、地域研究の分野を学び、ゆくゆくは修士を取ることができればと思っています。まずは第一歩として、この度アンケートを実施していただきましたこと、心より感謝いたします。」(30歳代・女性)

「今まで何度も放送大学への入学を考えましたが、受講資格は日本国内に居住の方のみとなっている為諦めていました。もし海外からでも可能になるのなら、ぜひ入学したいと思っています。受講したい講座がたくさんあります。」(50歳代・女性)

「放送大学には以前から興味があり、過去に何度も調べましたが、テレビやラジオが中心で、興味のある科目は海外からは受講できず、残念に思っていました。他の大学の通信も数多く調べましたが、大抵スクーリングがあり、調べる度に残念に思っていました。どんなに学びたい気持ちがあっても、日本の大学は海外在住者には優しくないと思っていました。オンラインだけで受講できたらこんなに嬉しいことはありません。」(40歳代・女性)

➤ オンライン完結で学びたい。

「日本に住所はあっても、家族が若年者や高齢者では気軽に転送を依頼できません。オンラインならではのデジタル完結型で受講出来るのなら是非検討したいですし、周囲でもそういった声をよく聞きます。」(40歳代・女性)

「以前、貴大学が企画された新型コロナウイルスに関する講義を聴いた後興味を惹かれ、心理学の受講を真剣に考えましたが、実習があるということで諦めました。実習もオンラインで出来たら、是非学びたいです。」(50歳代・女性)

「オンラインだけで修了できる科目を増やしてほしい。日本に帰国はとても難しいです。」(40歳代・女性)

➤ 海外育ちの子女の教育に役立つ授業に期待している。

「自分自身海外で生まれ育ったため、小学校以来日本の教育を受けたことはありません。確かに当地の教育機関でも勉強は継続できますが、やはり母国語での教育のほうが身につけやすいですし、放送大学でダブルスクーリングできたら帰国した際もすぐ日本に馴染めると考えています。なので前向きに検討していただけたら本当に幸いです。」(30歳代・女性)

「ぜひ実現させてほしいです。補習校卒業した人たち向けの講座があってもよいと思います。」(40歳代・女性)

「海外生まれ在住で日本国籍を持つ若い人向けに日本語英語併用での講座があったら受講希望者は多数いると思います。」(60 歳代・女性)

➤ 日本語教育関連の講座を受講して、資格を取りたい。

「海外では取得しにくい、日本語教育学関連の博士号が取得できるとありがたいです。」(50 歳代・女性)

「子供の日本語教育を通して日本語教師の勉強をしたいと思うようになりました。放送大学で海外に居ながら資格や学士が取れるようになればぜひ利用したいと思います。」(50 歳代・女性)

➤ 具体的な提案

「放送大学の国際化ということで、時代に合わせた非常に有意義な取り組みと感じています。参考として、NHK for School (Website) は海外在住者の特に子どもの教育に大変助かっています (中には生涯教育的な利用も可能なものがあります)。放送大学が、生涯教育分野での類似の展開を検討下されば、非常に意義深いと思います。」(40 歳代・男性)

「他大学で社会人向けの講座を受けたことがあります。時差があるので、自分で学ぶ環境があること (動画やオンラインでできる習熟度を測るテストなど、課題の提出や添削もメールや専用サイトで行えること)、支払い面では Paypal やクレジット決済が可能なこと、1 回あたりの価格でもいいですが、サブスクリプションのようにやや値段を下げて月額でいくらかでも学べ継続して視聴できること、国内でしか通用しない資格ではなく、グローバルで活用できる資格取得ができるような内容などがあるとよいのではないのでしょうか。すでに Coursera のように、アメリカの大学や Google などが提携してそういった資格取得ができるサイトもありますが、まだ日本語に対応しきれていないことを考えると、日本人が国内・国外のどこでも活躍できるようなそういった内容や目的を持ったもののほうがいいかと感じます。」(40 歳代・女性)

以上